様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">美術館検討委員会（第５回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">市民活力推進部文化国際課　電話０４２－７６９－８２０２（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成２０年１０月９日（木）　９時３０分～１２時００分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">相模原市民ギャラリー　会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">１１人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">０人</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">５人（市民活力推進部長、文化国際課長、他３人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>３人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td colspan="3">１　開　会
２　議　題
(1)相模原市の美術館は、何を目指す美術館なのか。（まとめ）
(2)相模原市の美術館は、何をする美術館なのか。（まとめ）
(3)相模原市の美術館は、何を収蔵するのか。
(4)相模原市の美術館は、何を展示・教育するのか。
３　その他
４　閉　会</td></tr>
</table>

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。（○は委員の発言、●は事務局の発言）

《備考》美術館検討委員会で設置を検討している施設・組織について、施設・組織を指す場合、「美術館（仮称）」とすべきだが、記述の煩雑さを避けるため「美術館」と表記する。

１　開　会

相模原市市民活力推進部長あいさつ

２　議　題

(1) 相模原市の美術館は、何を目指す美術館なのか（まとめ）。

(2) 相模原市の美術館は、何をする美術館なのか（まとめ）。

（議題（1）（2）については、合わせて討議を行った。）

※事前配布資料１～３について、事務局から説明。

● 美術館の「目的」、「行う事業」についてはそろそろまとめる方向を示していただき、「収蔵」、「展示・教育」についても議論を深めていただきたい。

○ 「何を目指すのか」について、第４回で美術館の目的として、「相模原市の美術文化を築く美術館」、「地域の美術館」、「まちづくりをする美術館」の３つが掲げられていたが、「相模原市の」「地域の」「まちづくり」という部分で「場所」を示す言葉の繰り返しになっていた。そこで、今回、「人を育む」「場を育む」「芸術文化を育む」という言葉で、「人・場所・芸術文化（もの）」という観点でまとめ直した。観念的な部分になるので、いろいろな考え方があろうかと思うが、一つの考え方として、整理させていただいた。市の美術館の性格として、未来を志向するのか、あるいは、まちづくりを中心にすべきなのだろうかと考えたが、究極は「未来を創造する」のが目的ではないのか？ただし、ここでは「創造する」ではなく、「育む」という表現をさせていただいた。まちづくり、作家支援という事柄も「美術館の行う事業」として項目立てされているが、まちづくりは「場を育む」ことであり、作家支援は「人を育む」ことにつながる。「美術文化を育む」について、「美を育む」としなかったのは、現在活動している「アート」や「芸術」が、必ずしも「美」を目的としていないためだ。

○ 「何を目指すのか」ということについて、「場を育む」というのはしっくり来ない。「交流の場」となることが一番重要であるが、何かもっと良い表現は無いか。「教育の場」であるとか、他の言葉でも良いのではないか。

○ 案は、よく考えられてはいるが、「人を育て」、そこから「場所を育て」、ひいては「芸術文化を育てる」というつながりはどうかと思う。以前から言っている「美術館」という名称についても、何か良い表現は無いか。「育む」という言葉は「ミュージアム」の発想だ。我々が目指す美術館は、内に守り育てるのではなく、美

術館の外にある様々な活動と統合・連結していくことだ。

○ 最終的に、「基本理念」に何をうたうかが重要ではないか。「未来を育てる美術館」とあるが、「市民を育む」とか、「人を育み、未来を育む」など何か別の視点を入れてもらいたい。

○ 従前から相模原市の美術館について、「地域の美術館」、「地方の美術館」という言葉で表現しているが、「都市近郊型美術館」であるとか、もっと的確な表現は無いか。

○ 「美術館の機能」について、美術センター機能を掲げているが、「センター」には「拠点」、「人が集う」といったイメージがあるが、もっと外側に出て活動するイメージとすべき。中に集約するより、外に出て活動するイメージの「集合体・複合体」として「コンソーシアム」という言葉もある。「連携・ネット」を示す言葉がより良いのではないか。「ミュージアム」でなく、「センター」でない、適切な名称は無いか。

○ 委員の意見の集約で「ゲームセンターのような娯楽性」とあるが、「テーマパークのような」という表現もあったのではないか。

○ 「文化の仲介を行う、斡旋業的な立場」という表現についても、「リエゾン・触媒機能」という表現がより好ましいのではないか。

○ 先ほど部長のあいさつに、市でフォトギャラリーを設置する構想があるという話が出たが、今回の美術館検討委員会では、フォトギャラリーも含めた「市の美術館施策」について検討すべきだ。この「美術館施策」の中で包括して、美術館やフォトギャラリーについて考えていかなければならない。

● フォトギャラリーについて、この検討委員会の検討対象に含まれていないわけではない。広い意味での美術館の検討に含めて良いと思う。

○ 写真の収蔵量は約二千枚ということだが、美術館の収蔵庫に収めるとどのくらいの割合を占めるのか？

○ 枚数で二千点といっても、重ねて保存が可能なので、絵画や彫刻に比べれば大した分量にはならない。

○ フォトギャラリーについて、新たな情報が出たらお知らせ願いたい。

○ 「美術館」は、「美を創造する館」であり、市に美術館が作られるということは、生活の中に美を取り入れて楽しむことだ。生活にアートを取り入れると、生活環境が豊かになり、心が豊かになる。「心の豊かさ」について盛り込んで欲しい。

○ 障害者を始めとするさまざまな市民をイベントに巻き込むことが、難しいが、重用なことだ。カルチャーとして、市民が生活や生活環境を重視するという意味で重要。

○ 「場を育む美術館」については、人が集まって語り合う、交流の場になること。良い物を見ることで交流が深まる。そういった意味で美術館の意味は大きい。都

市・自然環境について、１０月４日付の神奈川新聞で、「市民満足度調査」の結果に関する記事が出ていたが、環境問題・環境整備などに対する市民の関心が高かったようだ。美術館は公園型の美術館が良いのではないか。建物を大きくするのも良いが、来館者の居心地の良さも重要だ。

○ 満足度の話が出たが、美術館の重要度が認識されていない。都市における重要な機能として、美術館が正しく認識されていないのではないか。「美術センター」という名称について、「美術イコール絵画」というイメージが強いことと、美術は専門的で難しいというイメージを与えないか。「芸術センター」とすれば、音楽を含め、様々な活動の可能性を感じさせる。発表したものを見たり、聞いたりするだけでなく、アートを支える人を支える美術館というイメージが出るのではないか。

○ 美術センターは、ここでは機能として挙げたものなので、名称は別途考えるものと思うがどうか。

○ いずれにしても、「育む」は「包む」という意味なので、ミュージアム的なイメージだ。「美術館」よりは「ミュージアム」が良いが、それよりも、もっと大きな領域を包括した、もっと概念を膨らませたような、メッセージのある言葉が必要だ。

○ 今ここで名称を美術館にするか、アートセンターにするかといった結論を出すのは難しい。センター的機能とは何なのか、組織として何をするのかといったことを決めるために名称は「美術館」という仮称にしておき、あとで名称を決めても良い。「芸術センター」とついている施設も実際にあるが、現実には何か特別な活動をしている施設ではなく、美術館活動をしている美術館の一つだ。

○ 同じ課題を共有できたということで、「何を目指す美術館なのか」「何をする美術館なのか」については、ここまでとし、次回までに事務局と「とりまとめ（案)」を作成したい。

(3) 相模原市の美術館は、何を収蔵するのか。

※事前配布資料４について、事務局から説明。

○ 収蔵について、作家支援のために公募展で「国内外の優秀な作品を収集する」とあるが、公募と収蔵はなじまないのではないか。公募展の賞金ぐらいで収蔵されてはたまらないという作家の視点もあろうし、一発屋のようにこの先伸びていくか分からないような作家の作品を収蔵するのはどうかと思う。「国内外の優秀な作品を収集する」場合にも、厳密に収集基準を設けて収集を進めていくべきだ。

○ 収蔵も含めて、何をする美術館かを詰めて、その目的に合わせた収蔵を行うべきだ。また、収蔵困難な作品は記録して保存するとあるが、著作権についてどう扱うのか不明だ。

○　収集方針について、収集の「方向」を示すだけで良いのではないか。収集の方法については実際に美術館が立ち上がった後に学芸員が考えればよいことだ。ここで収集の方法まできめてしまうと、後で学芸員が自由に活動できなくなる危険がある。

○　若手作家支援とあるものについて、全て「若手」という表現を外して欲しい。

○　収集の方針について、美術館検討委員会の意見集約の中で記述すべきではない。「若い人の発表の場を提供する」といった表現も、総合的な意味で「美術館の活動を活発化する」といった表現にし、同様に収集についても「優秀な作品を収集する」といった程度にしておいた方が良いのではないか。

○　収集方針は、ここでは具体的にすべきではない。美術館設立後に、学芸員の活動を拘束しない表現が良い。

●　収蔵についての要綱・手順について、各美術館ではどのように設けているのか。

○　相模原市の現在の要綱では、市の幹部による調整会議と美術の専門家による専門員会議に分けられているが、世田谷区では１０名の委員による収集委員会で検討している。区長が委員会を招集し、区が事務局の役割をする形だ。委員１０名は市民と美術専門家により構成されている。

○　世田谷区が美術館を設立する際に、美術館構想委員会という組織があり、下部組織に美術のプロを中心とした「収集委員会」と、建築のプロを中心とした「建築委員会」というものがあった。この「収集委員会」で美術館の収集方針について討議し、「ゆかりの作家と素朴派を収集する」という方針が定められ、この「収集委員会」が美術館開館後にも引き継がれて、収集作品を審議する収集委員会に発展した。

●　収蔵する作品については、美術館の方針を反映した収集でなくてはならない。見る人に対して、美術館の方針が具現化できるような方針が必要だ。

○　作品にポリシーを持たせるのであれば、目的に合わせて制作依頼をするしかない。特定の目的のための収集でなく、あとでさまざまな目的に活用できる収集にしておかなければならない。

○　学芸員や館長を早めに決めるのが良い。開館までに館長なり、主任学芸員が中心になって構想・収集を進めていくべき。

●　人選を早く行うことについて、検討結果に盛り込んだほうが良いか。

○　「人を育む」にしても、「場を育む」にしても、結局は人にかかってくるもの。運営に関わる人が早くから参加していかなければならない。そのために運営する人をできるだけ早く決めることだ。

○　美術館の目的に「未来を育む美術館」とあるが、「風っ子展」の目録など、資料として美術館に保管できないか。

○　現在子供たちがやっていることを記録として残したい。

○　風っ子展のパンフレットを残していけば良いのではないか。子供は自分の記録が残っていればうれしいと思うだろう。
○　アーカイブに保管することも含めて、検討はできる。
○　せんだいメディアテークでは、図書館の方でデジタルアーカイブとしてさまざまな資料を残しているが、資料の活用を考えると保存するだけではいけない。組織的に予算を掛けて管理する必要がある。美術館構想に組み込んでおいたほうが良い。
○　子供たちの作品やその資料を取っておく方がより良いが、実際は不可能ではないか。美術館は刺激剤の役割であるので、実際の保管は他館に任せるべきではないか。
●　「人を育む、未来を育む美術館」としてどのような機能が必要なのか、従前のホワイトキューブではない美術館として、再度まとめさせていただきたい。
●　具体例を羅列するのではなく、美術館の向かうべき方向としてまとめ案を作成しなおしたい。
○　ライブラリー、資料室、工房等、何を盛り込んでいくのか。
○　市民の美術館といっても、市民の発表の場を、美術館の中に取り込むのは難しい。他の市でも市民ギャラリーを美術館の中や外に設けて市民の自主的な発表の場としている。
●　現行の市民ギャラリーについては、現状では廃止する予定は無い。
○　誰が方向付けをしていくかが問題だ。貸し館についても同様。美術館の学芸員が方向を定めるべき。
○　交通の便も考えながら市民の活動の場として市民ギャラリーを残すべき。貸し館について、学芸員はあまりタッチせず、機能分担して他館に任せたほうが館の個性も出せて魅力的だ。
●　美術館と他施設との連携は不可欠だと考えている。
○　「開かれた美術館」の目的について、資料では「バリアフリー、ノーマライゼーション」が挙げられているが、バリアフリーやノーマライゼーションも重要だが、本来の「開かれた美術館」として挙げるべきなのは、この例のような、単独の館の中で完結しない「オープンな連携」のことだ。
○　地域に根付くためには、地域に分散していくべきだ。機能を分化して行く方が、実効性が高く斬新だ。
○　事務局と協議して次回に提案していきたい。
○　市民ギャラリーについて、横浜市では、美術館よりも市民ギャラリーのほうが古く、貸し館・企画展などの活動においてそれなりに充実している。当初は運営のための財団を設立し、財団の中で学芸員を配置し、年１～２本の企画展、教育普及的な事業を行ってきた。良い意味で美術館との役割分担ができていると思う。

(4) 相模原市の美術館は、何を展示・教育するのか。

※事前配布資料５、７について、事務局から説明。

● 何を展示・教育するのかについて、「美術館の目的」「基本理念」に沿って案を作成した。「美術館の目的」や「基本理念」について再度、（案）を作成しなおすこととなったので、「何を収蔵するのか」とともに、再度案を作成したい。

３　その他

※他市の美術館の規模について、事前配布資料６により事務局から説明。

○ 市の美術館建設用地は狭いが、建ぺい率はどのくらいあるのか。

○ 資料にもあるが、建ぺい率60%、容積率300%のため、延べ床面積は10,980㎡が最大だ。

○ 「横浜市民ギャラリーあざみ野」を視察したが、駐車場が狭くて使いにくいようだ。展示室は小さく、吹き抜けばかり大きい。吹き抜けは光熱費の無駄使いだ。

○ 美術館は一度建てたら建て替えがきかない。最初から、最大限利用された場合を見越して、大きな物を作っておくべきだ。

● 今回の美術館検討委員会は基本的なコンセプトの策定までとし、具体的な規模については、別の検討組織で検討にすることとしたい。

第６回検討委員会について日程調整を行い、１２月２５日（木）１４：００から相模市民ギャラリー会議室にておこなうこととなった。

美術館検討委員会委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	生　嶋　な　ぎ	公募委員		出席
2	石　野　克　彦	公募委員		出席
3	稲　木　吉　一	女子美術大学	教　授	出席
4	上　條　陽　子	市民の美術館を考える会	代　表	出席
5	清　水　哲　朗	東京造形大学	教　授	出席
6	陶　山　定　人	相模原芸術家協会	会　長	出席
7	高　橋　直　裕	世田谷美術館	学芸員	出席
8	原　田　　光	元横須賀美術館副館長		出席
9	古　田　　亮	東京藝術大学	准教授	出席
10	松　本　美代子	市立緑ヶ丘中学校	校　長	出席
11	森　脇　裕　之	多摩美術大学	准教授	出席